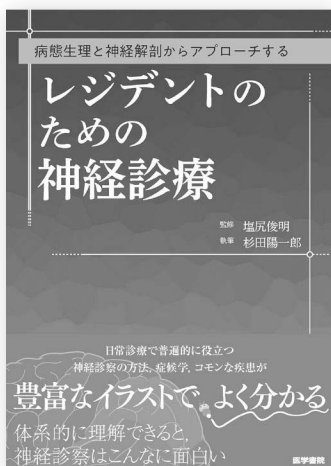




病態生理と神経解剖からアプローチする レジデントのための神経診療

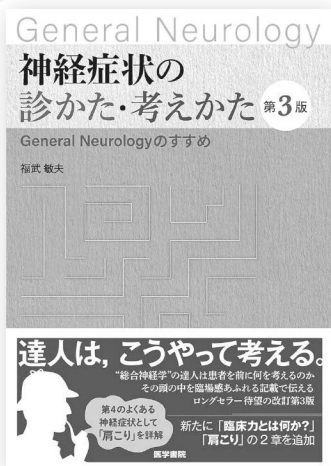
塩尻俊明＝監修

杉田陽一郎＝著

定価 5,720 円／B5 判・392 頁／医学書院／2023

本特集をご企画いただいた杉田陽一郎先生(p.136～、p.154～)が著し、また「急性脊髄疾患」をご執筆いただいた塩尻俊明先生(p.187～)が監修した最新刊。

神経領域は「難しい」「わかりにくい」と敬遠されがちだが、体系的に理解できると面白い！本書は初学者向けに、領域横断的に内容をまとめ、オリジナルのシェーマを多用し概念を整理して提供することで、研修医・若手医師の学習に有用な1冊となっている。日常診療で普遍的に役立つ神経診療の方法や症候学、コモンな疾患を扱っており、非専門医でもここまでは把握しておきたいという線引きを明示した。p.201に書評あり。



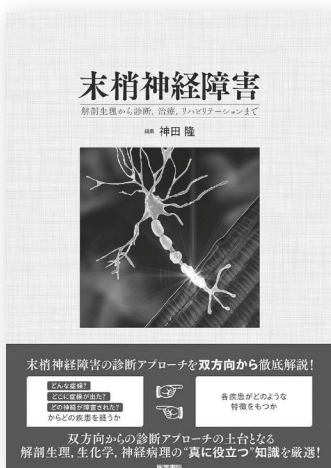
神経症状の診かた・考えかた

General Neurology のすすめ
第3版

福武敏夫＝著

定価 5,940 円／B5 判・440 頁／医学書院／2023

気概・情熱・好奇心に満ちた General Neurology の必読書が待望の改訂！脳神経内科学の肝である神経症状の診かた・考えかたを、本領域の第一人者である著者が、その経験を踏まえてまとめた実践的な教科書。診断への道筋を著者がどのようにたどったかわかる臨場感のある記載が多くの読者に支持され、初版以来、幅広い層に読まれた定番書。本改訂では、「臨床力とは何か？」「肩こり」の章を追加。さらに新たな症例・知見を盛り込み、全体にわたってアップデートした。



末梢神経障害

解剖生理から診断、治療、リハビリテーションまで

神田 隆＝編

定価 13,200 円／B5 判・520 頁／医学書院／2022

末梢神経障害の臨床に必須の情報を網羅した、明日の診療がレベルアップする1冊。コモンからレアまで重要な末梢神経疾患の特徴を幅広く解説することに加え、症候の種類・出現部位、どの神経に障害があるかといった所見から何を疑うべきかを解説し、双方向から疾患に迫った。双方向からのアプローチに欠かせない解剖生理・生化学・神経病理の“真に役立つ”知識を厳選。最新の治療からリハビリテーションまで、充実した内容となっている。



慢性痛のサイエンス

脳からみた痛みの機序と治療戦略
第2版

半場道子＝著

定価 3,960 円／A5 判・296 頁／医学書院／2023

「痛みの定義」の改訂、「nociceptive pain（痛覚変調性疼痛）」の定義といった、国際的な潮流を反映して全面改訂。慢性痛のメカニズムを、脳科学的視点から丁寧に解き明かした。第7章「神経変性疾患と慢性炎症」では慢性痛を訴える難病患者の脳を、また新規8章「腸の痛み、腸と脳の連関」では腸が脳に与える影響といった、慢性痛の“ミッシングピース”を大胆に考察して大幅加筆。慢性痛患者に携わるすべての医療者必読の書。p.203 に書評あり。



神経病理インデックス

第2版

新井信隆＝著

定価 11,000 円／B5 判・272 頁／医学書院／2023

神経病理を学ぶなら、まずこの1冊から！ 神経病理の森を迷わず進むための羅針盤として圧倒的な支持を得た定番書が、18年ぶりに改訂された待望の1冊。神経病理学のエキスパートとして長年の経験から得られた膨大なコレクションのなかから、「これぞ！」という写真を厳選して掲載した。改訂にあたり300点近い写真を新たに追加。簡にして要を得た解説が初学者にもわかりやすい。最短ルートで神経病理の最高峰を一望できる。



“問診力”で見逃さない神経症状

黒川勝己、園生雅弘＝著

定価 3,520 円／A5 判・150 頁／医学書院／2019

神経疾患の詳しい知識がなくても、神経学的診察が苦手でも、「問診だけ」で鑑別疾患はここまで絞り込める！『週刊医学界新聞』の好評連載の書籍化。「頭痛」「めまい」「しびれ」「意識消失」などよく診る神経症状について、コモンな疾患を見分け、重篤な疾患を見逃さない“問診力”が身につく1冊。

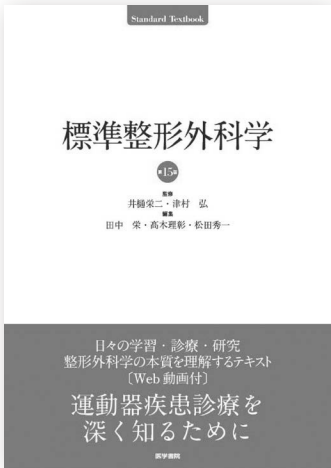


『medicina』2023 年 6 月号 (Vol.60 No.7)

整形外科プライマリ・ケア
内科医が知りたい整形外科疾患のすべて

田島康介＝企画
定価 2,860 円／B5 判・208 頁／医学書院／2023

救急の現場では、疾患の緊急性に対する認識の違いから、内科医と整形外科医の見解がどうしても噛み合わないことがある。内科医は「全身」のことを考え、整形外科医は「局所」のことを考えようとするためだ。そこで、互いの思考の交通整理をしようと、本特集を企画した。プライマリ・ケア医や内科医が、整形外科疾患や整形外科系の主訴を訴える患者に対応する場合、そもそもそれが内因性の愁訴なのか、整形外科的な愁訴なのかを判断するには、整形外科系の疾患についての知識も必要となる。内科医が判断するために役立つ 1 冊。



標準整形外科学

第 15 版

井樋栄二、津村 弘＝監修
田中 栄、高木理彰、松田秀一＝編
定価 10,450 円／B5 判・1112 頁／医学書院／2023

運動器疾患の確かな知識が身につく！ 整形外科診療に関わる医療者に最も支持されているテキストの改訂第 15 版。豊富な写真やイラスト、丁寧な解説により、初学者が運動器疾患をやさしく、かつ詳細に理解できる。今版では関節リウマチや骨腫瘍などについて、最新の知見もさらに盛り込まれた。また、代表的な身体検査や超音波検査など、より学習を深めるための付録ウェブ動画も収載。運動器疾患を学ぶ人にとって最適な 1 冊。

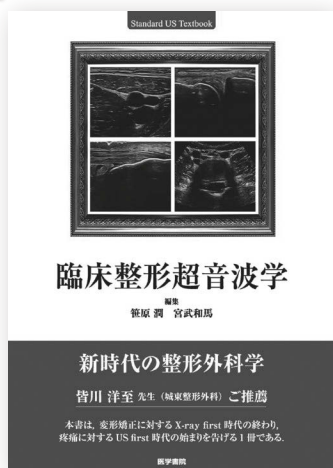


整形外科レジデントマニュアル

第 2 版

田中 栄＝編
大島 寧、齋藤 琢、武富修治、廣瀬 旬、松原全宏、森崎 裕＝編集協力
定価 4,950 円／B6 変判・458 頁／医学書院／2020

整形外科のプロフェッショナルの思考過程をたどる必読書の改訂版。東京大学整形外科で培われてきた経験をもとに、初期・後期研修医に向けて整形外科診療の基本をまとめたマニュアル。好評を博した初版の流れを踏襲しつつ、整形外科診療の現況に合わせ、内容をアップデートした。総論では整形外科医に必要な基本事項を、各論では日常診療のポイントやピットフォールを提示。エキスパートはどのように診断し、治療方針を立てているのか？ 本書を通して一連の思考過程を学ぶことができる。



臨床整形超音波学

笹原 潤、宮武和馬＝編

定価 7,920 円／B5 判・392 頁／医学書院／2022

運動器超音波が切り開く新しい整形外科の教科書。運動器超音波の登場により、整形外科が大きく変わりつつある。『臨床整形外科』誌増大を全面書き直し、初めての運動器超音波から、臨床現場での活用や新しい技術に加え、末梢神経をターゲットとする痛みへのアプローチを徹底解説。さらに、運動器超音波と解剖学を共通言語に整形外科医と理学療法士がタッグを組み、整形外科診療をアップグレードした。本書から新しい整形外科の地図が見えてくる！



アナトミー・トレイン [Web 動画付] 第4版

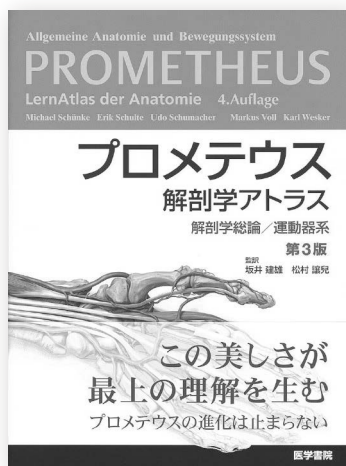
徒手運動療法のための筋膜経線

トーマス・W・マイヤース＝原著

板場英行、石井慎一郎＝訳

定価 7,480 円／A4 判・404 頁／医学書院／2022

身体の筋膜経線をたどる旅へ、列車に乗って出発進行！ 人体を走る筋膜経線によって、姿勢制御や運動連鎖の仕組みを、列車の路線 (lines) や駅 (stations) にたとえて解説したテキストの改訂第4版。筋膜のつながりとその驚くべき機能が明らかになる。2019 年より、アナトミートレイン・ストラクチャルラインテグレーション (ATSI) 認定プログラムが日本でも開始され、国内での資格取得が可能となった。リハビリテーションやボディワークに携わるすべての人々の必携書。



プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版

坂井建雄、松村譲児＝監訳

定価 13,200 円／A4 変判・630 頁／医学書院／2017

大好評のプロメテウス解剖学アトラス、解剖学総論／運動器系の改訂版。美しいイラストに的確な解説文を組み合わせた従来の良さ・強みを残したまま、図版の配置や解説文の推敲を重ね、さらなるわかりやすさを追求している。医師・医学生にとどまらず、すべての医療職に支持される理由は、手に取れば自ずと理解されるだろう。さらに洗練された解剖学アトラスの最高峰。プロメテウスの進化は止まらない。